

よどがわおおぜきこうもん

淀川大堰閘門起工式を開催します

～淀川舟運の活性化により防災力向上と賑わい創出～

淀川の舟運は、現在、淀川大堰によって分断され、上下流で行き来ができませんが、平成7年阪神淡路大震災からの復興で舟運が活躍する等、舟運復活の機運の高まる中、本年度、淀川大堰に新たに閘門を整備することが決まりました。

淀川大堰閘門の整備により、大阪湾から淀川を通じ、宇治川の京都市伏見区付近まで舟運で行き来できるようになり、災害時の物資輸送等をはじめ、平時には観光や公共工事でも舟運の活用が見込まれます。

この度、2025年大阪・関西万博開催までの竣工を目指し、下記のとおり起工式を開催します。

記

- 開催日：令和4年1月22日（土）
受付開始 9：30～
式開始 10：30～
- 開催内容：詳細は別紙1のとおり
- 開催場所：淀川河川公園毛馬地区内 ※別紙2参照
- 主催者：国土交通省近畿地方整備局、大阪府
- 取材：取材希望の方は、令和4年1月17日（月）17時までに電子メール（kk-r-yodogawa-soumu01@mlit.go.jp）にてお申し込みください。

※別紙1参照

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら開催いたします。

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により、開催を中止する場合があります。

<取扱い>

<配布場所> 近畿建設記者クラブ・大手前記者クラブ・大阪府政記者クラブ

<問合せ先> 近畿地方整備局 淀川河川事務所 副所長 きしもと けんじ 岸本 健司（内線 204）

総括地域防災調整官 はやし たかひろ 林 貴宏（内線 203）

電 話 : 072-843-2861

大阪都市計画局 計画推進室 総務企画課 課長 みなみ たかし 南 孝志（内線 4651）

参事 ますだ あきひろ 増田 彰宏（内線 4661）

課長補佐 しげした てつや 繁下 哲哉（内線 4661）

電 話 : 06-6210-9812

よどがわおおぜきこうもん
淀川大堰閘門起工式の開催について

- 式 名：淀川大堰閘門起工式
- 主 催：国土交通省近畿地方整備局、大阪府
- 日 時：令和4年1月22日（土）10：30～12：00（受付9：30～）
- 場 所：淀川河川公園毛馬地区内 ※別紙2
- 内 容：開式、来賓挨拶、経済界からのメッセージ、鍬入れ式、閉式
- 当日の現地取材申込方法

・取材を希望される方は、令和4年1月17日（月）17：00までに電子メールにより事前登録をお願いします。

<電子メールによる申込み>

メール本文に①貴社名 ②所属部署名 ③ご担当者の氏名（ふりがな）④ご同行者の氏名（ふりがな）⑤ご連絡先（住所・電話番号・メールアドレス）⑥取材票の送付先メールアドレス⑦車両台数⑧車両ナンバー を記載のうえ kkr-yodogawa-soumu01@mlit.go.jp までご送付下さい。

■問い合わせ先

近畿地方整備局 淀川河川事務所 副所長	岸本 健司 (内線 204)
総括地域防災調整官	林 貴宏 (内線 203)
電 話 : 072-843-2861	
大阪都市計画局 計画推進室 総務企画課 課長	南 孝志 (内線 4651)
参事	増田 彰宏 (内線 4661)
課長補佐	繁下 哲哉 (内線 4661)
電 話 : 06-6210-9812	

■取材にあたってのお願い

- ・報道関係者は、次のとおり、式の円滑な進行にご協力くださいますよう、お願いいたします。
- ・取材について説明を行いますので、9時45分までに受付をお済ませ下さい。
- ・当日、記者及びカメラマンの方は、自社の腕章を着用いただきますようお願いいたします。
- ・式遂行上の都合により、内容・時間に変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ・会場にお越しの方は、後日電子メールで送付します「取材票」をカラー印刷のうえ、ご持参ください。「取材票」がない場合は、入場をお断りする場合がございます。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策について
 1. 発熱、咳などの症状のある方は、参加自粛にご協力ください。
 2. 来場の際には、マスクの着用をお願いします。
 3. 手指消毒剤を設置しますので、手指の消毒、検温にご協力をお願いします。
 4. 参加者は、咳エチケット、手洗い、相互接触（握手等）の回避等に心がけてください。
 5. 参加者の個人情報については、新型コロナウイルス感染が発生した場合、行政機関へ提出する場合があります。

■会場・駐車場位置図

会場／駐車場：淀川河川公園毛馬地区内（淀川左岸 淀川大堰上流付近）

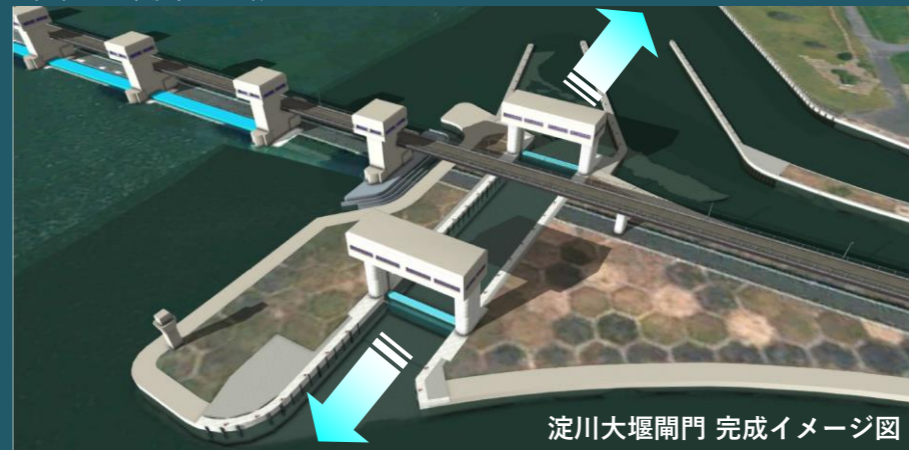


拡大図



淀川大堰閘門の整備に着手

淀川の航路は、大川と淀川の分派点に位置する淀川大堰によって分断され、行き来ができなくなっています。上下流を結ぶ閘門を設置することによって、淀川河口・大阪湾と淀川上流の間を船が行き来できるようになります。大阪・関西万博開催までの完了を目指し、淀川大堰閘門の整備を令和3年度から推進していきます。



淀川大堰閘門 完成イメージ図



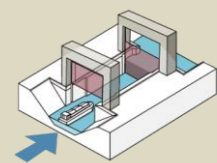
閘門設置前の淀川大堰周辺



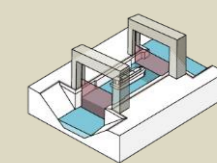
閘門設置後の淀川大堰周辺

閘門のしくみ

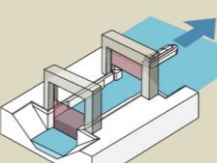
閘門は、水位差のある水面の間を結ぶ船のエレベーターの役割を果たします。



1 片方のゲートが開き、船が閘門に進入します。



2 ゲートを閉じ、閘門内と出口側の水位を揃えます



3 反対側のゲートを開き、船が出て行きます。

淀川舟運の歴史と現状

舟運 [しゅううん] とは、船を使って物資や人を輸送することです。昭和初期までの淀川の舟運は、大阪と京都を結ぶ人々の生活に欠かせない輸送の手段でした。

しかし、陸上交通の整備が昭和初期頃から広がったことにより、舟運は徐々に人々の暮らしから遠ざかりました。

阪神淡路大震災からの復興で舟運が活躍したことから、舟運の必要性が見直されました。また観光の役割も担う重要な手段としても認識され、大川の八軒家浜船着場と枚方緊急船着場を結ぶ定期運航が始まるなど、舟運復活の機運が高まっています。

舟運の全盛

舟運の衰退

舟運の復活



昭和初期まで淀川で運航していた外輪船



平成29年より定期運航されている観光船

舟運に期待される役割

災害時

舟運を利用した復旧活動



阪神淡路大震災における舟運を活用した堤防復旧

阪神淡路大震災の際には、被災した淀川堤防の復旧に舟運が活用されました。災害時には陸上交通が麻痺することが想定されるため、舟運の活躍が期待されます。

公共工事

淀川沿川の公共工事への活用



阪神なんば線淀川橋梁架け替え工事における舟運の活用

淀川の舟運はこれまで淀川大堰より下流域の一部の公共工事で活用されてきましたが、淀川大堰閘門の完成により、上流域を含む淀川沿川の様々な公共工事で、大規模な資機材や大量の土砂等の運搬に舟運の活用が期待されます。

観光

船で京都へ、万博へ



上流 [背割堤の桜と花見船] と下流 [万博会場・夢洲] の観光資源

淀川大堰閘門が完成することによって、京都から大阪までの航路がつながることになります。2025年大阪・関西万博の会場である夢洲までの航路としての期待も高まります。

淀川舟運のこれから

淀川沿川には、多くの魅力ある観光資源が存在しています。また、2025年には大阪・関西万博が開催され、国内外からより多くの観光客が大阪・京都を訪れることが予想されます。淀川上下流の舟運分断の解消により防災対策、賑わいづくりを関係機関と連携して推進することで、魅力ある淀川となるよう努めていきます。



※現在、整備中

